

「研究のうごき16号」の刊行に寄せて

「研究のうごき」は中央水産研究所の広報誌です。平成15年から毎年刊行しています。編集ポリシーは、第一義的に研究成果を読者が理解できる言葉で語ることです。読み手は高校生や大学生を含む世間一般の人々、同じ水産分野でも専門の違う研究者を想定しています。高校生くらいの語彙力で理解いただけることを意識しています。1つのトピックスを1ページで、文字は少なく写真や図を使い簡潔に記載します。研究者がわかりやすい言葉で自身の研究を読者にアピールすることは、読者の皆様が私たちの研究をご理解いただく上でとても大切なことだと私は思っています。



「サイエンスコミュニケーション」とは専門家でない方々へ科学的なトピックスを伝えることです。科学の良さや面白さ、感動を皆様に伝えることにあります。伝えるとともに皆様が私たちの研究の理解者、すなわちサポーターになっていただくことです。

私たち研究者は、なぜ研究するのか、どのように研究するのか、どう役立つのか、をお伝えする義務を負っています。難しい言葉でいうと「説明責任」です。皆様の税金を使って研究するのですから、説明責任は当然です。

「中央水研ってこんなことを研究しているんだあ。役に立っているなあ。」を皆様から頂戴できるように、“成果を分かりやすく、そしてサポーターになっていただける。”をモットーに編集してまいります。本誌は研究所の見学者、所内一般公開や研究所が主催する会議などでも配布しています。本誌をお手に取られた皆様には、ご意見、ご要望、お気づきの点がございましたら、ご遠慮なくお寄せください。

今後も中央水産研究所をご愛顧いただきますようお願い申し上げます。

平成30年9月

国立研究開発法人水産研究・教育機構 中央水産研究所

所長 前野 幸男



表紙写真：(提供)

1. 家系シミュレーターの結果の一例 (秋田鉄也)；2 造成試験区で発見した天然のメガイアワビ稚貝 (澤山周平)；3. マガキの美味しさの3Dマップ (村田裕子)；4. バレニンの構造式 (大村裕治)；5 チャネルキャットフィッシュ (松田圭史)